

要求実現の力をもつ  
労働組合をめざし  
全国で組織建設と  
拡大をすすめよう！



発行所  
**JMITU**  
(日本金属製造情報通信労働組  
合)  
〒114-0023 東京都北区滝野川  
3-3-1 ユニオンコーポ3 階  
電話 (03) 5961-5601~2

# 「9条改憲・働き方改悪」阻止の1票を 総選挙で安倍退陣！ JMITU中央行動 三木委員長が訴え



中央行動で厚労省に要請行動 (10月12日)



厚労省に対し安倍政権がすすめる「働き方改悪」に反対し、真の働き方改革を求める職場決議を提出する三木委員長。全国から111の決議が提出された

JMITUは12日、「アベ働き方改悪」「9条改憲」阻止へ、総選挙で安倍退陣をと中央行動をおこない、厚生労働省への要請をおこないました。三木委員長は、「22日投票の総選挙は、安倍内閣がねらう『働き方改悪』と『9条改憲』阻止がかかった重要な選挙」と強調。とりわけ9条改憲が大争点になっているなか、「職場で3000万憲法署名を急いでひろげ対話し、市民と野党共闘の護憲勢力が3分1以上を獲得できるように全力をあげよう」と訴えました。

通信産業本部の土方書記次長が契約社員の無期転換、継続雇用者の賃上げ要求へたたかいを強化すること、日本IBM支部の大岡委員長が解雇自由化、裁量労働の拡大は許さないと決意表明しました。

# 17秋闘 人員増など各地で前進

要求支部128支部分会

17秋闘は13日までに新たに5支部分会で要求を提出し、要求を提出した支部分会は128となり、39支部分会で前進回答を引き出しています。三英社支部（東京南部）では、第2次統一交渉で「無休2日」であった産休休暇が「有給で2日」となり、「欠勤扱い」であった介護が「休職扱い」となり最大2年6カ月まで利用可となるなど大きく前進しました。

「本物の働き方改革」を求める統一要求での残業時間短縮のためにも重要な要求である「人員増」では、小坂研究所（東京東部）の「中途採用（下期）5人、新卒9人」、カシフジ（京滋）の「新卒8人、中途・アルバイト2人」に続き、京滋・草津電機でも「新卒2人」など前進しています。人手不足を背景に経営側も採用に積極的であり、ねばり強く要求することが重要です。

18日（水）は第3次の統一交渉、25日（水）は年末一時金の統一要求日です。JMITUは、年末闘争とも結合させ、産別団交など産業別統一闘争を強化します。

## 組織強化と産別団交で要求前

大阪地本

大阪地本では13日までに10支部が秋闘要求を提出。10日の第2次統一交渉までに4支部で前進回答を引き出しています。

今年の大会で女性の執行委員ができた野村製作所支部では「妊娠中の通院休暇」で「月1日の通院休暇」（初回回答）に続き、「女子トイレに疑似音発生装置を設置」（二次回答）と、女性の要求が実現。引き続き「トイレの改善」に向け「調査をおこなう」との前進回答を引き出しました。

夜勤交代勤務がはじまった日立建機ティエラ支部では、「深夜手当40%増→45%増」「昼勤と夜勤の交代時手当1回700円→1000円」を引き出したほか、「リフレッシュ休暇を5日」「大阪工場の設備改善（ロボットの更新）」も勝ち取りました。

例年不誠実な姿勢を続けている田辺鉄工所では11日の2次回答で「枚方工場機械課の電灯LED化」「雨漏り箇所の修繕」「食堂ドアの新調または修繕」「トイレの様式化（2カ所中1カ所）など、この間の組織拡大を力に、要求が前進しています。

北陽電機支部では、門前で秋闘アンケート100枚を配布。集約は20人ほどですが、例年にない構えをつくり、「深夜手当改善」「年休取得向上の施策」「退職金制度改善」など要求したたかっています。

大阪地本は18日の第3次統一交渉で産別団交を強化、25日要求の年末闘争も結合したたかいます。

### 「日ごろから『つながる』」

3年ぶりに青年が加入

長野・丸子警報器支部

丸子警報器支部で、22歳の青年がJMITUに加入しました。2013年秋の3人の青年の加入に続くものです。彼は今年2月に入社し、JMITUの組合員が大勢いる製造2課のラインで、ホーンの生産をしていました。

仕事の合間、組合活動や春闘、一時金の回答結果を報告するなど、日ごろから対話をしてきました。アンケートにも協力してくれました。

なんとしても組織拡大をしなければと、組織拡大名簿を作成し、執行部、組合員に協力してもらって担当も決めました。彼は5月におこなわれた金属労組懇のボウリング大会、交流会にも参加してくれました。飲み会にも参加してくれました。その後会う機会がなかったのですが10月に入って異動があり、また前の職場（製造2課）に戻ってきました。すると彼のほうから、女性組合員に「組合加入書はあるのですか？」と聞いてきました。さっそく組合事務所に来てもらい、加入してもらいました。

彼の両親は農協勤務で組合に入っているそうです。「組合があるのなら、入っていて損はないよ」と言われたことがいつも頭にあり、加入を決めたそうです。翌6日には会社に加入を通告。日ごろからつながっていくこと、もっと気軽に加入をよびかけていく必要があると痛感しました。（長野・吉池通信員）

「JMITU」（メールニュース版）は、闘争時の「情報」、組織建設の経験・教訓なども含め適時発行していきます。各支部・分会などひろく発信してください。